



湯湾岳から焼内湾を望む(奄美大島)  
奄美大島最高峰の湯湾岳周辺には、広大な亜熱帯林が広がり、固有の動植物が多く生息・生育している。

第3回 動植物

亜熱帯の森は多彩な動植物の宝庫

不思議な成り立ちが生んだ独自の生態系

奄美群島には、固有の生き物や珍しい生き物が数多くいます。これは、常緑広葉樹を中心とした亜熱帯林が広がっていることや、奄美群島の特徴的な成り立ちが影響していると考えられています。

今から約1000万年前、奄美群島は大陸の一部でした。その後、地殻変動によって大陸と離れた陸続きになったりを繰り返した結果、大陸から渡ってきた生物が島で独自の進化を遂げ、

または島でのみ生き残り、多くの固有種が生息・生育するようになったのです。

原始的な姿で現在まで生き残ったアマミノクロウサギ、ヒマラヤ地方に生息するインドカケスと近縁のルリカケス、緑色の地肌に鮮やかな金色の斑紋をもつアマミシカワガエル。これらをはじめとする多くの固有種は個体数が少ないものも多いため、国や県・市町村の法令や施策により保護されています。

世界自然遺産への登録も、奄美群島における野生動植物の保護や人との共生を進めることにつながっています。



1. アマミノクロウサギ：短い耳と足、長い爪という原始的な特徴を残した世界的にも貴重なウサギ。／2. アマミシカワガエル：「ヒョー」という特徴的な声で鳴く。日本産のカエルの中で最も美しいとの定評がある。／3. ルリケカス：美しい羽を持ち、乱獲された過去を持つカラスの仲間。国の天然記念物で鹿児島県の県鳥。

特設サイト「時を紡ぐ、彩りの島 奄美・琉球」

<http://www.kagoshima-kankou.com/amamiryuky/>

奄美・琉球 世界遺産

検索

